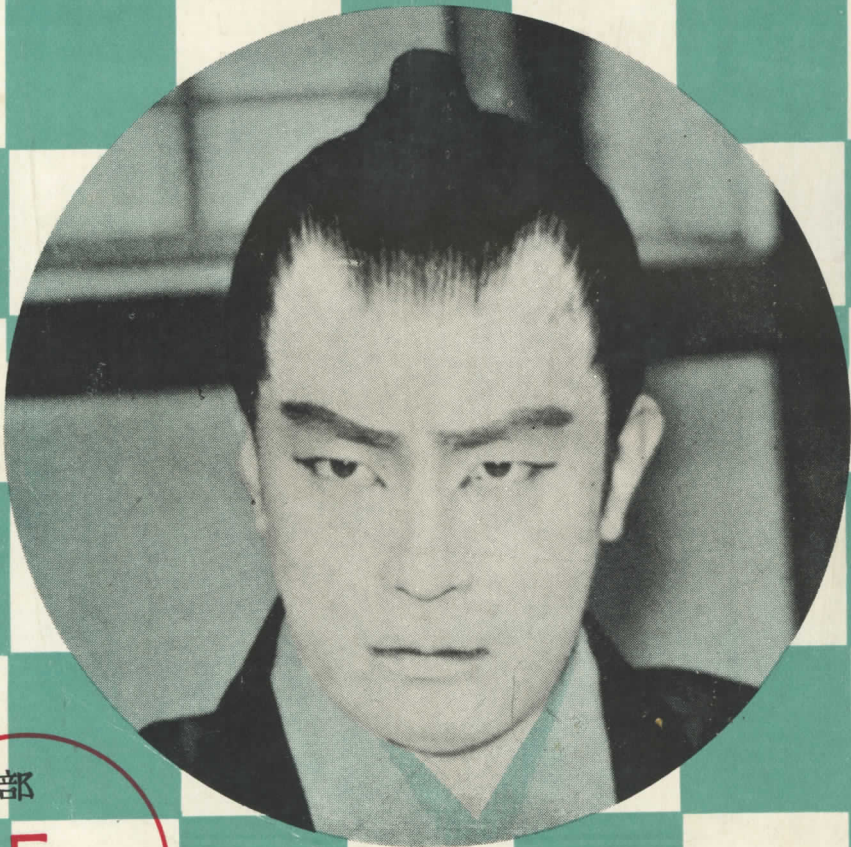


月刊新輯

昭和二年十月廿五日第三種郵便物認可  
昭和十三年八月八日印刷(毎月一回)  
昭和十三年八月十五日發行(十五日發行)  
「道」編輯 第四百四十三號 第十三年

# 道 賴 振

142  
第四百四十三號



一部

25 せん

七月八日合併

盛夏號

中元の御祝儀には！

贈る方でも 戴いた方でも 最も御便利重寶な

# 松坂屋の商品券

五圓以上御好みにより、体裁よく  
御調進申上げます

◇……商品券は大阪、東京（上野、銀座）、静岡  
名古屋の各店に共通致します。……◇

其他御進物用の好適品を厳選し全店に  
充満致しました。何卒本年も御用命を！







東側林

目次

道頓堀 第四百十三號

舞踊 朝顔賣 ..... 森 ほんほ (2)

怪談もの無駄話 ..... 高安吸江 (4)

力一杯の夏芝居 ..... 濱村米藏 (6)

關西新派と民衆劇 ..... 森 ほんほ (8)

松竹家庭劇に與ふる書 ..... (A) 額田六福 (14)  
 ..... (B) 中山楠雄 (14)

新興キネマに捧ぐ ..... 南町 淑 (30)

五郎と十吾 ..... 菱田正男 (18)

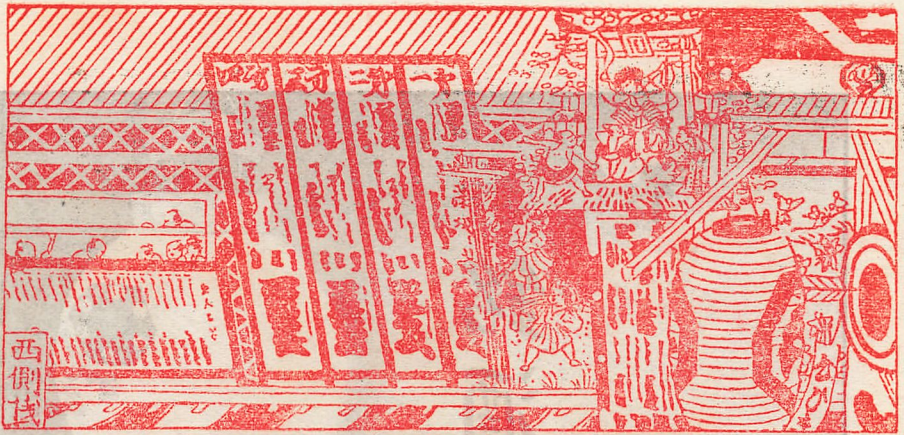
澁團扇で足り候 ..... 曾我廼屋 五郎 (20)

東京公演を了へて ..... 曾我廼屋 十吾 (21)

芝居 俳句 狂言その折々 ..... 花柳章太郎 (10)

涼み 臺 ..... 東竹舎人 (12)

宮本武藏の大殺陣 ..... 梅徑莊主 (29)



# 涼風をおくる

(文) ほのほ生 (26)  
(撮影) フジタ・タダシ

清水寺と五條橋

芝居  
川柳

## 花四天

森 東魚 (23)

## 私の銷夏法

大江美智子 (22)

## あこがれの道頓堀

永田 靖 (24)

## 中座進出

本庄 克二 (25)

## 道頓堀展望

T N 生 (32)

## 六代目來る

一 記者 (26)

## 懸賞課題・次號豫告

(34)

## 懸賞應募用紙

(35)

## 編輯後記

(36)

### 特 フラゲ

好太郎の忠信と富美子の靜——新築地の狂言四種——伏見信子と久松三津枝——海の六女優——美鳩まり、春日芳子——榎美佐子——若原千鶴子のサンドラ、秋月惠美子のアンドレー、パウロの勝浦千浪、エロザの水上ましろ——若葉蘭子、松園桃子、小浪若朗の「渦まく水門」

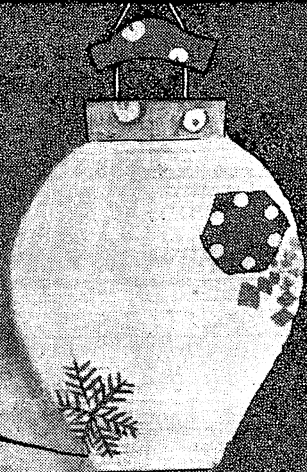
表紙……………坂東好太郎の近藤 勇

扉……………啓 事 (編輯部)

銘酒

白雪

振津伊丹灘小西酒造株式会社



# “音の潮”



一から左

美 久 鶴  
香 慈 ま  
金 取 行 り  
春 澤 千 子  
山 日 美 代 子  
路 都 子  
ふ 芳 子  
み 子

(伏見信子)



(分松三津木)



(子芳日泰)



(美鳩まり)

パ  
ン  
X  
ク  
ロ  
ム  
X  
オリエンタル  
フィルム



(子佐美穂)





七月公演  
 O.S.K. 演  
 “心のふるさと”  
 グランド・レビュー

ラドンサの子鶴千原芦

ザルエのろしま上水



ルウパの浪千浦勝

レドンアの子美恵月秋



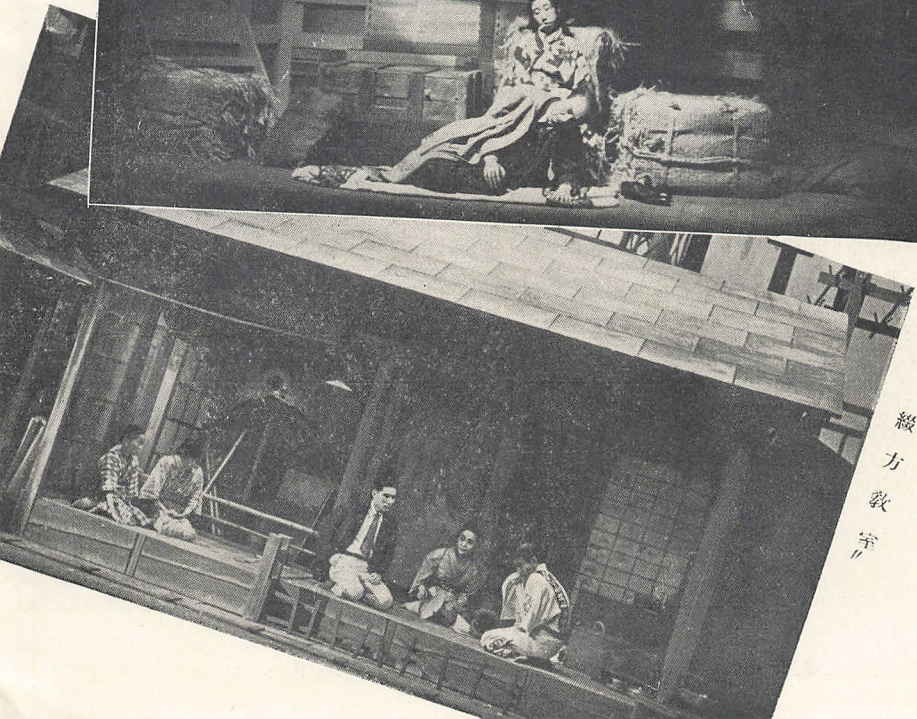
“寛良守子”



“女 葵”



“葵”



“方 教 室”

中座の新築地劇團

# 本社主催夏の催し

山に鍛へよ

生駒山上夏期大會 涼園遊園

海に鍛へよ

遠浅  
安全

堺大濱海水浴場



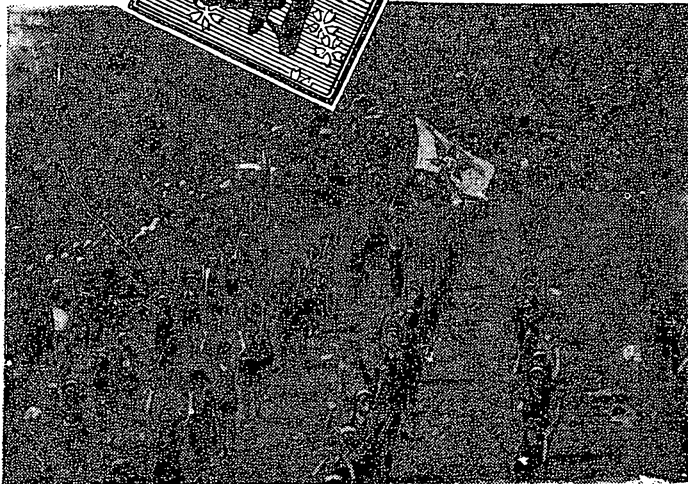
大阪一の愉快な

明るい夕刊新聞

年中無休

購読料

二部 金貳錢  
二ヶ月 金五拾錢



暑  
中  
御  
伺



中  
外  
商  
業  
新  
報  
社  
經  
營

大  
阪  
北  
濱

暑  
中  
御  
伺

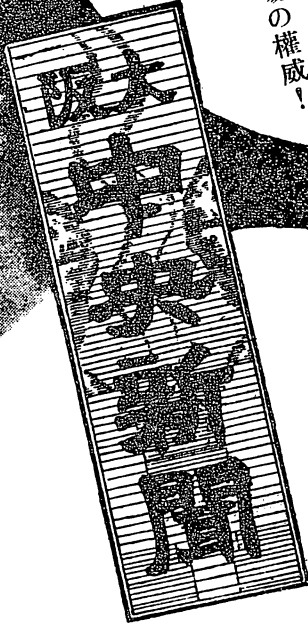


社  
長  
越  
智  
南  
海

大阪市北區空  
心町一丁目  
電話代表堀川(35)五二五二番

支  
店  
東  
京  
神  
戶  
奈  
良

關西唯一の經濟新聞！  
我が國證券市場の權威！



朗かな書体みの好伴侶！  
我國最初の畫刊新聞

株式會社 大阪經濟新聞社  
大阪・東區・北濱  
電話代表北濱一〇〇番

# 大阪 今日新聞

◇ 唯一の日本主義新聞  
◇ 堂々の筆陣痛快無比新聞  
◇ 明るく朗らかな新聞  
◇ キビくとも気持好ま新聞  
◇ 特種満載興味横溢の新聞



大阪今日新聞社社長 笹川春一  
大阪市東区北浜一丁目二八  
電話北浜四〇六五〇五〇三〇四

島之中阪大 營經社本

# 館列陳業工設常



示展品産工良優  
關機長助引取商

創立廿五年



# 日刊工業新聞社

大阪中之島 · 東京銀座

全每  
五五  
日日  
業業  
十  
二  
網  
二  
羅  
頁

最高指針

購讀料

一ヶ月 金壹圓貳拾錢  
三ヶ月 金參圓五拾錢



毎々八頁の大々刊

# 毎日 大阪新聞

# 日本工業新聞

朝刊十二頁

日本工業新聞によつて  
工業界の動向を知りこれに  
順應する施設をなせ  
日本工業新聞によつて経済界の  
趨勢を知悉し機宜を誤ら  
ざる對策を講ぜよ

大阪 北區堂島濱通四ノ三  
東京 麹町區有樂町二ノ四

暑  
中  
御  
伺



社 會 式 株

大 阪 每 朝 新 報 社

七二ノ一北島福上區花此市阪大  
番〇〇五三(45)島福表代話電  
番五〇二五・番三九六(45)島福  
番〇六二〇四阪穴座日替振  
號二十二局田野西函書私

暑  
中  
御  
伺  
申  
上  
候

昭  
和  
十  
三  
年  
八  
月

土  
山  
文  
隆  
堂  
印  
刷  
所

京  
都  
市  
綾  
小  
路  
柳  
馬  
場  
東  
入  
電  
話  
下  
⑥  
三  
三  
三  
三  
七  
四  
八  
五  
番  
番



大時新報

暑中御伺



# 電

組織 株式會社  
 資本 貳百萬圓  
 創立 明治三十四年七月一日  
 廣告 年額貳千萬圓以上  
 取撥 高

◎東京大阪全國各新聞記者中廣告特約  
 ◎特約取外  
 ◎新聞雜誌 內外五百余社  
 ◎社團法人同盟通信社姉妹會社

東京本社 日本電報通信社  
 名古屋 電通名古屋支社  
 上海 電通廣告公司

# 通

營業種目

◎全國、新聞、雜誌宣傳廣告代理取扱  
 ◎圖案、文案、意匠作製  
 ◎廣告統計通信

◎活動寫真の攝影映寫  
 ◎各種商業寫真

出版印刷  
 ◎新聞雜誌、新聞廣告總覽、廣告研究、日本電報、英文日本電報、英文留聲月刊、選集留聲月刊、選集大觀、伊太利大觀等刊物の發行  
 ◎紙型、寫真、凸版、各種製版印刷

企劃  
 ◎各種廣告宣傳企劃



(通電稱略)

大阪市北區中之島二丁目

# 大阪電報通信社

電北 五五九九九一  
 話濱 六一六三二四八

暑  
中  
御  
伺

中央市場新聞

大阪市此花區大野町一丁目

中央市場新聞社

電話 土佐堀  
(七七) 二七七  
一七七  
六七七  
〇八七  
番番番

一部二錢

一ヶ月五十錢

筆陣堂々天下無敵

正戰勇鬪是日本一

生氣潑刺躍動猛進

全紙悉熱炎之結昌

名實共年中無休刊

日本唯一  
(Fヨにも他にありません)

錦城 米田誠夫經營

大正日日新聞



「武勲の大將・筆陣の大正」

「銃後の活力素・慰安の糧」

大坂市東區北濱四丁目六番地

大正日日新聞社

番九四四一 番〇七二  
番八九一二 番六四四一  
番〇二八三 番七四四一  
番八〇三四 番八四四一  
番七八九二 五坂穴座ロ替振

(23) 濱北話電

暑 中 御 伺

◆不屈權勢、不媚富貴  
 ◆議論公明、報道迅速

◆夕刊四頁發行



大阪市北區天神橋筋四丁目三六

發行所 大阪都新聞社

社長 南隅 喜八

電話 天王寺(77)

三三六一番  
 三三六〇番

# 暑 中 御 伺



本誌が獨り夕刊新聞として覇を爲すに止まらず全日本の新聞界に於ても鬱然として一大王國の觀があるのは單に面白いからのみではない、

讀めば必らず胸奥を震撼させずには居ない感激と正義の文字で紙面が盛上つて居るからである。人情風俗の活映畫、財界の波、商機の動きには正確の羅針盤、讀みたい新聞、讀まねばならぬ新聞、讀まずには居られぬ新聞。……………

代 聞 新  
 錢 貳 部 一  
 十 五 月 一  
 錢 五 十 稅 郵

料 告 廣  
 圓 壹 行 欄 通 普  
 貳 行 一 欄 別 特

所 行 發 市 阪 大  
 北 區 東 市 丁 四  
 濱 番 七 目 丁 阪 大  
 地 新 日 日 阪 大  
 社 聞 日 日 阪 大

濱北話電  
 1104・1102・1103  
 1104・1800・2600  
 7 0 7 1  
 用 送 發 付 受 間 夜  
 1 0 1 1



吉仁の良吉の郎太好東坂 "山神荒 版籍"



下加茂演劇團  
第一回公演

(中座)

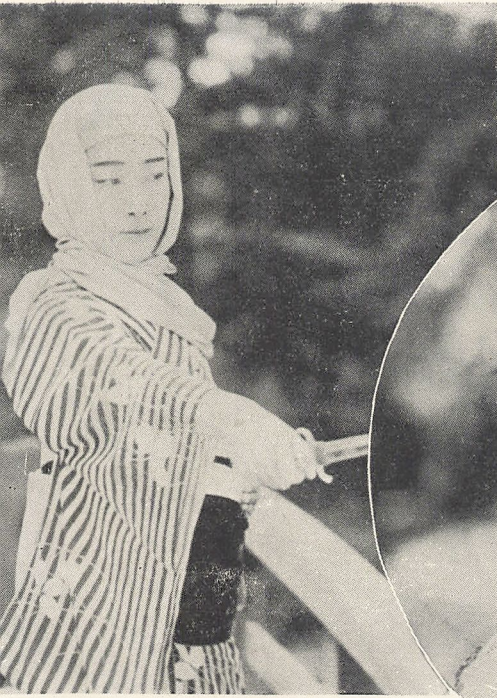


前御静の子美富谷木



信忠狐の郎太好東坂

マラドノキ  
 “門水くま渦”



瀧おフロトエの子桃園松



若葉蘭子の愛妾浪江



桃子のお瀧

小波若朗の藤卷の與四郎

# 金鶏印罐詰 二大製品

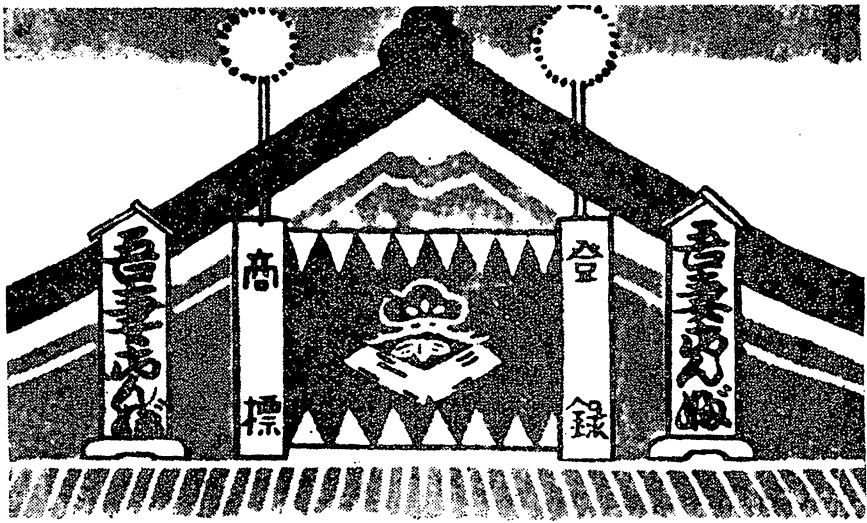
- 1. 純良精選の牛肉  
で御座います
- 1. 不意の御來客に
- 1. 御酒ビールの御友に
- 1. キャンピングに
- 1. ハイキングに
- 1. 各地百貨店  
著名食料品店  
に販賣致して居ります
- 1. キンケイ印を御指定下さい



洋酒・食料品・罐詰問屋

大阪市東區豊後町三番地  
株式會社

横山商店



## 一、健康ニ昆布

昆布ハ我國ノ特産デアリマス。

昆布中ニハ澤山ノ「ヨード」ヲ含有シテ居リマス。

特ニ酢昆布ハ其ノ含有量ガ一番多クアリマス  
 昨年大阪市立衛生試験所ニテ發表セラレ新聞ニ  
 記載サレタコトハ「食物中〔ヨード〕ノ  
**最モ含有量ノ多キハ昆布ナリ**  
 デアリマス。

「ヨード」ハ人ノ必要ナルモノデ皆様ノ活動、健  
 康ノ上ニモ欠クベカラサルモノデアリマス。

皆様!! 滋養ニ富ム昆布

美味ノ王酢昆布

吾妻昆布

ヲ召上ラレテ日々御健康!!ニ活動シテ下サイ。  
 オ可愛イ御子達ニモ是非!!

吾妻昆布本舗 安田常次郎商店

大阪市浪速区元町五丁目

電話一〇二八番

高級花  
何られ



野田製霰工場

店主 野田 五男

大阪市浪速區元町五丁目

電話 戒二一九九番

旅行の御相談と

全國遊覽地代表旅館の

御案内は！

観劇券と

観劇會の御用は！

大阪道頓堀 角座前

氣分の案内所

増利三

電話南貳六四番



ダイヤ時計ヒス井  
貴金屬金・白金潰

交高價買入  
換モ致マス

南區京白門町相合橋北角

電南 六六



京美堂

東區北浜二丁目交査英

電北浜 二三四四

賣リ良イ

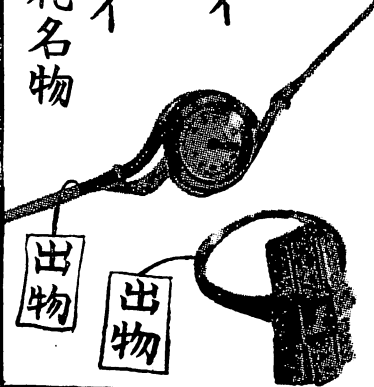
買イ良イ

品ノ良イ

出物デ

名高イ

浪花名物



スセロブ  
作製板看術美

るゆらあ  
告廣傳宣

社事商告廣

造勝中田

前日千阪大

番〇九七三戎電  
ルクナ!

# 鮫 廣 末

—前座天辨・堀 頓 道—

芝居・映畫の

御見物の

通りがかりに

御立寄り

願ひます

鯛・鯖の昆布巻は

自慢もので

ございます

御土産入念に

調進いたします

理料と居芝・樂娛と病治

四貫島

# 長生温泉

大阪

るべ遊に樂氣でれ連族家お

いさ下めきおと泉温生長ひせ  
りあ備設の室洋和いよのじ感 は會宴御

長生温泉

長生温泉



り通泉温目丁三通大島貫四電市  
番九二一三(44)堀佐土話電



各 種 御 折 詰

水 了 軒

本 店 北 區 鶴 野 町 二 八

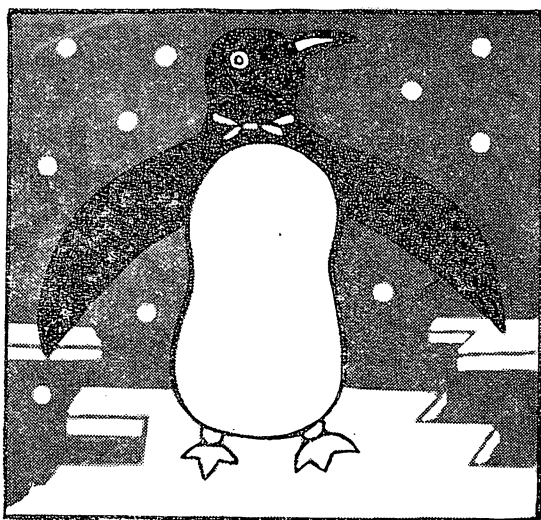
電 北 六 〇 二 二 八 番

出 張 所 阪 急 市 前 電 扇 町 線 東 半 下

電 北 一 八 三 四 番

# 換氣冷房完備

“室内暑さ知らず!!”



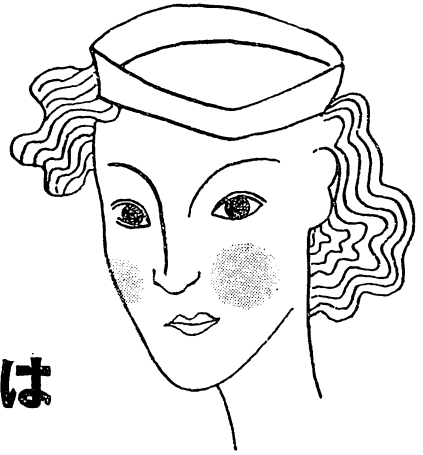
## 麻雀醜醐

道頓堀辨天座の東

てくまう

てくやは

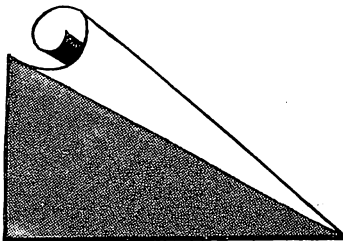
いよりいは



|      |     |                        |     |      |      |
|------|-----|------------------------|-----|------|------|
| 日本料理 | 天麩羅 | すき焼 <small>肉と魚</small> | グリル | 支那料理 | 西洋料理 |
|------|-----|------------------------|-----|------|------|

御観劇のお歸りには

階下食堂

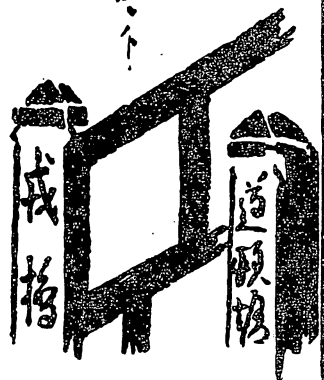


道頓堀

かどや

(電話南一〇三・八六一六)

豐 野 川 魚 料 理



電話南  
四八四  
四八四  
二〇番

藝文・経済・演劇・刊行  
道 頓 堀

第 三 十 三 年 七 月 八 號

— No. 143 —

敬 啓

國家愈々多事の秋、劇壇亦益々多端ならんとしてをります。  
新劇の進展・善導、歌舞伎の整理・保存、キノドラマの動  
向、人形淨瑠璃の打開、映畫・演劇の交渉、内部的にも外部  
的にも、種々の解決すべき問題が残されてをります。蓋し本  
誌の使命も亦重しませねばなりません。乃ち當編輯部は爰に  
その最善を至すべく、多年本誌寄稿家として因縁淺からざる  
森ほのほ氏に今後の監修を委嘱して、一層の進展を計り、出  
來得る限り貴意に副ひたい存念であります。何卒恒久の御聲  
援を御愛讀を切に希ふものでございます。

昭和十三年八月

「道頓堀」編輯部



舞踊

朝顔賣

森  
ほのほ

舞臺——淡彩で描きし町家の背景。

詠への鳴物にて幕明くと、すぐ常磐津の淨瑠璃になる。

朝顔や起したものは花も見ず、夜明けの鐘を待ちかねて、町々めぐる世渡りも

トこの時、向う揚幕の内にて朝顔賣の呼聲する。

詞  
朝顔や、あさがほ——

次ぎの文句にかより宜き程に朝顔賣、縮緬の浴衣、緋大幅のさがり、芥子玉の手拭その他好みの拵へにて、朝顔の鉢をならべし荷をかついで出で、花道七三あたりにて宜しく振あり。

お氣に入谷の朝顔を、朝茶の友やお目さまし、今が盛りの花の色、江戸紫や瑠璃、絞り、品きりくくの御所望三足を早めて來りける

右の文句一ぱいに本舞臺へ來り、賣荷をおろす。

詞  
エヘン（ト咳拂ひして）これはこのあたりのイヤモウしがねえ朝顔賣にて候ふ

ハ露の干ぬ間を召したまへ

詞  
朝顔や、あさがほ——

ト上手下手に向ひ呼ぶ。

詞  
朝顔に——（ト後の文句を思ひ出すこゝろ。）

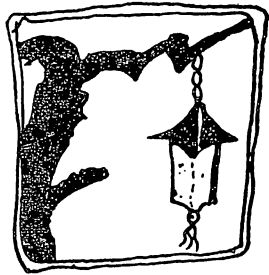
ハ釣瓶さられてもらひ水、寐ほけ眼に花の顔、のぞく井筒やつるべ繩、からみついたら離れうものか、さうで女房にや  
持ちやさんせまい、せめて今宵もあすの夜も、なんの情の一ト夜妻

ハ昔馴染まつまづいた石は、腹が立つても後を見る

詞  
はつくしよ（トくきめする。）

ハ一ほめられて二くさされ、三惚れられて四かぜ引く、同じ引くなら縁の綱、身勝手ながら御ひるきを、重ねて願ひ揚  
幕へ、賣荷肩けて急ぎ行く。

ト繪面の見得、賑やかなる鳴物にてよろしく暮。



# 怪談の無駄話

高安吸江

夏になるに昔からよく怪談ものが上演されます。此れは恐ろしいので襟元から水を浴びせられたやうに、ゾツと身の毛がよ立つ、そこに忘暑の意味があるといふのかも知れません。或は怪談の誘因としてよく憐愍な殺し場なきが出るが、盛んに使用される糊紅を洗ひ落すのに浴衣や裸體なきの扮装が便利であるかも知れぬ。此方は少々たより無い理由ですが、こにかく客足の鈍る夏枯れ時に、何かな好奇心を煽つてその難關を突破しやうといふ興行政策の一ツであるには違ひありません。

此歌舞伎劇の怪談物には、人間の亡靈（稀に生靈の事もあります）と鬼畜の妖怪

變化に大別されます。幽霊の方は御大のお岩をはじめ累やお菊その他の怨恨によるもの、牡丹燈籠のお露のやうに執念からのものがあり、變化では茨木に戻橋或は紅葉狩なきの鬼神、玉藻や葛の葉の狐、鍋島、有馬、岡崎等の猫、それから猿、蜘蛛、鯉その外數へたてるごかなり澤山あります。

此等の怪物も時代によつて多少變遷がありまして、例へば天狗なきは室町時代のやうに歌舞伎劇の材料に使用されません。殊に現代の如く科學が普及し一般民衆が理智的になるに、妖怪變化や亡靈に對する信仰や恐怖が著しく減少（敢て皆無と云ひ得ぬまでも）して來るから従つ

て怪談ものに對して昔程の興味を感じないやうになつたのは已むを得ないこととせう。

既に三木竹二氏は四谷怪談を評して、例の戸板返しや髮梳きなきの仕掛け物が、切りつめた筋ですら六十餘條この事で、此等はずまり手品である、手品は程度の低い技藝に過ぎぬと喝破し、審美上から此劇は唯怯がらせであるといはれました。

三代目菊五郎（梅壽）が文政九年に始めて大阪の角芝居でお岩をやつた時、幽霊が逆さまに下つて來て秋山長藏の首を手拭で絞め其まゝ又上る處の評に、此仕かけ臺の上のり下る故、此幽霊は鮪の



さうびんに水を入れたやうであつた、昔でも感心ばかりしてをるわけではない。

それに此時のお岩は三光の櫛を妹にやりたい一念でろくろ首となつて屏風の内より出で、欄間を傳うて二階へ行つたさうで、凸凹したお岩の顔を見て可笑しがりそうな今日の見物は、轆轤首がノロノロ二階へ上るのを見たら恐らく吹き出すかも知れません。こゝにも時代の距りと共に見物心理が變化するこゝが判ります。

専門學者の説によりますと、お岩や累なぎの亡靈に對する恐怖美、其怨恨の誘因である慘虐美、それから相手方の悪逆美、此等を綜合した醜惡美が歌舞伎劇の一部を形成するのだそうですが、我々凡人の常識から考へると、それは唯理想論であつて實際にはあり得ないのではあるまいかと思はれるのです。

化政度以後、幕末の頽廢期では一般の

趣味が變態的となり少々の刺戟ではビンミ來ない。それであらゆる手段を盡して癡痺したその末梢神經を興奮させるべく怪奇的な醜惡そのものを材料に使つたのですが、そうした不快なるべき醜惡な方面でも、演出家や俳優の勝れた技倆によつて淨化される、殊にその演者が大衆的な人氣役者であれば一層その効果が著しいわけです。

四谷怪談にしても奇才鶴屋南北の脚色ミ音羽屋系の技巧で面白く見られ、又先年復活された累の如き、殊に延壽太夫の美しい音律によつて醇化されたので、いかに歌舞伎劇の力が偉いこと云うても、醜穢や兇惡は依然として醜惡であらねばならぬミ私共は考へます。

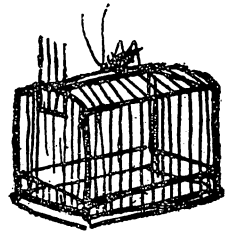
昔草双紙に金平ものがすたれたので化物共が段々衰微し、都繁昌にも出るべき空屋敷もなく、此まゝでは一統滅亡するより外に道もないから何さかならぬミか、作者へ相談した處、和蘭製のドン

ガラスミいふ眼鏡で人間世界を見せられ、人間の方に却て化物が多いこゝがわかつて本物の方が膽をつぶしたこと云ふ。此話は寛政頃の黄表紙にあります、其後幅をきかせた化政度以後の怪談ものも時勢が變つて追々流行らぬやうになつたのは已むを得ないことです。

しかしかに理智が發達し、萬事が科學的でなくば承知出来ないこと云うても、そこは人間の弱味で迷信ミ怪奇を求め、心ミは何の時代にも付きまじふもので、現に世界大戦中に於ける獨逸人の記録を見るミ、征戰者ミその家族間に起つた怪奇的事件が盛に語られてゐます。して見るミ歌舞伎劇ミは云ひ得ずとも、其時代に即した怪談ものは必ず成立し得るミ云へましやう。マア一ツ大いにモダツて新感覺派式のお化芝居でも演つてはいかゞです。

★

★



# 力一杯の夏芝居

濱村米藏

夏芝居といへば、棧敷の葭戸の蔭にゆるめく美しき人の姿や、客席に蝶々のやうに翻る扇子の波や、街角を曲るこはつきり聽える幕開きの拍子杵の響や、その他日本の風土特有の夏の情緒が思ひ出される。浴衣、蚊やりの煙り、花菱簾、團扇、打水、蚊帳、日傘等俳句の季節にあるやうな、いろいろのものが夏芝居を思ひ出の深いものにしてゐる。殊に道頓堀のやうな溝渠を傍にしてゐる芝居町は、夏芝居の情趣が一層深い譯で、それが土地の人々に取つては、紺青の夜空を

いろいろの花火のやうに、華麗多彩を極めてゐるに相違ない。それだけ、私みたいなのが、夏芝居には、芝居の思ひ出もさまざまだが、夏芝居には、こゝろ忘れ難い印象がある。實際の狂言にしても、夏でなければ味へないものがある。例へば「牡丹燈籠」もか鯉つかみも「伊勢音頭」も、こゝろ風なもの、やはり夏芝居特有の内容を湛へてゐる。これらの狂言は、樂屋裏から吹込んで定式幕を煽る風や、土間に膝を突き合せた見物の襟を流れる汗や、棧敷の欄干をかざる岐阜提灯のこき

めき等の、夏の風物が醸し出す雰圍氣の中でなければ、その本來の味を鑑賞し難いやうに思ふ。が、この頃は、御承知のやうに、劇場は大抵鐵骨鐵筋コンクリートで、冷房装置がなければ、お客が寄り付かうごしな。夏尙寒く、扉を排して廊下へ出る。臭く感じる始末だから、かういふ新しい感覺に、自らなる生活の疲ひが加はつて、そこに詩や歌が生れ出るまでは、只もう殺風景な風景があるばかりである。

しかし、かうは云つても、今日はいたづらに安易な昔の夏芝居の追憶に耽つてゐるべき時ではない。

未曾有の國民的大業を前にして、それこそ演劇報國の念に、舞臺の上で、力演熱演の火柱を燃え立たせるべきであらう。それには夏芝居が持つて來いだ。昔から夏芝居には一流の役者は休む。避暑がてら湯治なごへ出かけた跡で、普斷は碌な役のつかない二流級や若手の賣出しが中心になつて、勉強芝居をやる。つまり無名の役者の登龍門が夏の芝居で、ミても普通には見られない、鯉の瀧登り風な力一杯の芝居を見せたものである。従つて思ひもつかない面白さが生れもした。反對療法の意氣で、夏らしい芝居の外に、一番目や中幕で金襖物の厚綿を着る時代狂言を出して、汗を流して見せる

のも、つまりは若手が夏の舞臺を、本當の勉強の道場としたからである。夏芝居にはかういふ精神的な傳統の一面があるのだから、今年は一層この心構へを擴充緊張させて貰ひたい。尤も力一杯の芝居さいつても、芝居は相撲や柔道のやうな力業でないから、無暗に玉のやうな汗を流して見せるのが、能でないこゝは改めて云ふまでもあるまい。



□古川 柳

堺町ひつそりとなる暑いこと  
 役者の顔の青い水無月  
 いゝ役者團扇にしても煽がれる  
 しつとりと似顔のしめる螢がり  
 暑さをも役者であふぐ長局

御芝居用

双眼鏡各種

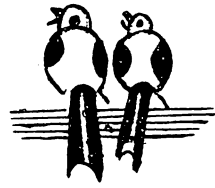


正 定 確 檢  
 ナ 鏡 眼 鏡  
 メ 鏡 眼 鏡  
 ガ 鏡 眼 鏡  
 ネ 鏡 眼 鏡

喜多由眼鏡店

大阪市戎橋通中筋南  
 電話二七二番

御芝居ニハ是非  
 双眼鏡



## 關西新派と民衆劇

森 ほのほ

關西新派は御存じの通り今日まで所謂

大衆向きの芝居を打つて來ました。それがロマン・ロオランが説く如き性質のものであるか、否かは別としましても、兎

に角舞臺の上からも、經營の側からも、

大衆向きを目安とした芝居を打つて來たのは事實です。勿論、今後も同じ主張、

同じ方針で進むこと、思つてゐますが、たゞ誤つてならないのは、大衆の爲に或

は大衆と共にいふことは、徒に大衆に倣ふことではないので、外國の詩人の中

にも藝術が民衆に理解されるには、それを民衆の水準にまで引き下げねばならぬ

と言つてゐる人がありますのは、大衆に

迎合せよこの意味ではなくて、藝術至上主義の物である必要はない、又あつてはならぬといふ意味に私は解したのであります。

さて、ロオランなごの説く民衆劇とは

どんなものか？事の序に關西新派劇團への参考として、その本質とするところを

手短かに述べてみませう。

(1) それが民衆の爲の娯樂であること。

見物は劇から何もかを教へられんが

爲に劇場へ行くのではなく、その芝居か

ら、その舞臺から何かを「感じる」ことを

望んでゐるので、例へば笑の中の涙、

涙の中の笑に見物は快感をおほえるの

で、教へられようとするのではないのであります。新劇團では下層生活者の描寫なごを好んで選ぶ傾向もあるやうですが、民衆が身につまされるやうな悲惨な生活を描いた芝居つまり彼等の生活の再現を見せて、同情同感を呼ぼうとする如き手法は、元來その本質に添ふものでないのであります。

これらは精神的の問題でありませんが、肉體的にも見物に安息を與へるのが本旨であつて、場席の如きも見易いのは勿論のこと、出来る限りくつろぎ得る、コンフォタブルなものであるべき筈です。

また劇の側から言ふに、見物が同感し、或は同情してゐる劇中人物——或時は自分が其人間であるかの如くにまで思ひつゝ見てゐる劇中の主要人物を破壊に導いたり、結末を悲歎に終らせることも、この定則に抵觸するわけでありません。

(2)それが民衆の爲の活要素であること。

民衆劇はいつも民衆の良き友であり、

いつも慰めと安息を與へるものであり、

今日明日の活動に適せしめ得るやうな元

氣の源となるものであるのを必要とする

こいふ意味であります。

(3)それが民衆の爲の光明であること。

善が悪の爲に苦しめられても、最後に

は善の勝利となる——さういふ建て前で

なければならぬので、新しい劇に屢々見

る悪と悪との對立に興味の中心を見出し

たりするやうな作物は、實は採用し難い

のであります。

以上の通り、所謂民衆劇はかういふ條

件を必要とするもので、精神上、肉體上

に愉快さ、健全さを感じしめる「健康と

歡喜に溢れた」演劇でなければならぬの

であります。なほ大衆を精神的に指導

し、向上せしめるのを理想とすべきでは

ないかこ私は思ひます。



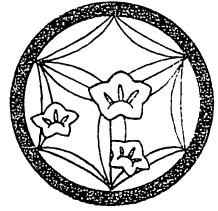
佛蘭西料理

大

程

南區芝罘町七

(電話三三六五)



俳句

狂言そのおりく

花柳章太郎

瀧の白糸の水藝を勤めて

白糸の名の涼しさに吹き分けん  
この扇この盃の涼氣かな  
日盛りのお笑草や水いぢり

春琴抄を詠む

かたくなご云へば云はせて蚊遣かな  
琴の音のそれにも梅の匂ひあり

一代女

大雪や女の傘の持ちち重み  
置炬燵意地が張り合ふ氣にもなる

雪國の駒子

障の灯うるみて笑める炬燵かな  
三味線も炬燵で弾くやおけさぶし

日本橋久々上演

春泥や一石ばしの名は今も  
春色もななりぬる榮螺、蛤に

お千世の額を納める

桃割に結ひてもらひし春日かな

初姿

白萩に露おおく夜なり初姿

稽古扇

春色や扇ばしから來る踊妓

蓑着れば灯入の月もなりにけり

婦系圖

清元を使つて梅の月夜かな  
二代目のお蔦の襟や冴え返る  
かみそりを帯に忍ばせ秋給



# 涼み臺

(その一)

— 猛優訥子と老歌六 —

東竹舎人

— 舞臺人……殊に歌舞伎の方の諸君とご交際は相當廣いのでせうね。

— つき合へば限が無いと言つていいでせう。私は御存じの通り、人づき合ひがへたですから極少數の優みだけのつき合ひです。

— 中には愉快的な優もありませうね。

— さあね、先代の訥子も歌六さかいふ人は、かなり逸話を残してりますが、現在ではそれほゞ痛快な話題を提供してくる人は無いやうです。

— 訥子や歌六さかいふ人はそんなに愉快的俳優だつたのですか。

— 舞臺の上でも、個人としても、兎も角も嬉しい役者でしたな。

— 何か観客を惹きつけるものを持つてゐたのでせうか。

— さうも言へますな。兎も角も體に自然の愛嬌があつてどこかその舞臺の上に賑やかな、華やかなものがありましたよ。今の吉右衛門や時藏——殊に舍弟(時藏)の方にはツキり遺傳されてゐますが、歌六さかいふ人は癖が多く——掌で

鼻ッ先をこすつたり、両手の先で胸を打つて衣紋を揺り上げるやうなこみをやつたり、恐ろしく烈しく手先を震動させたりしたもので、歌六最負の人達はつまりその不思議な癖を嬉しがつたのですな。

せうね。  
— さうです、歌六型が八分のやうに見受けます。吉右衛門には歌六も一目置いて、あまり小言もいはなかつたさうですが、時藏や今のもしほは舞臺の上でもかなり手ひきくやられたやうです。

— 無論へたではなかつたのですが、巧いさかいふよりも、要するに歌六色に塗り上げ得るだけの力はあつたわけですね。私はあの人の毛谷村の(六助)の型を覚える爲に四日間、宮戸座の薄暗い立見場へ通ひ續けたことがあります。言ひ替へれば、私を倦かさずに四日通ひ詰めたわけの魅力は有つたのでせう。

— 吉右衛門の六助の演出は歌六の型を踏襲してゐるので安達ノ三」は歌六の一人芝居



だに樂屋内で嬉しがつたさうです。

——訥子といふ人は「高田の馬場」の元祖のやうに言はれてゐますね。この人も舞臺に所謂愛嬌があつたのですね。

——個人にしても痛快な男だつたやうです。棹の宗之助に初孫（今の宗之助）が出来た時、當然おぢいちゃんと呼はれる身になつたのですが、さておぢいちゃんと呼ばれたのでは、いかにも老境に入つて體力も氣力も衰へたかのやうに感じられて、やだつたのでせう、彼はおぢいちゃんと呼ばれる代りに、おに、いちゃん、必ず呼ぶこゝにさせたさうです。

——成程、若さを命とする役者らしい考へ方ですね。殺陣は巧かつたさうですが……。

——巧いといふよりは烈しかつたので、猛優と呼ばれた所以です。例の「高田の馬場」で、駈つけに花道を三足半で飛んで這入るこいふのは有名なものでした。兎に角、立廻りで賣込んでしまつたんです。まあ先代左團次のイミテ——シヨンジ言つたわけで、高嶋屋物の忠彌が長英をかをやはり出し物にしてゐました。

——つまり當時の劍劇俳優こいふわけですね。

——飛び出た大きい眼玉、高く張つた鼻、横一文字の大きい口、肉附も身の丈も相當のもので、それでシワ枯れた、いきみ出すやうな聲、劍劇俳優としての條件はすつかり備つてゐたわけです。

——猛優ぶりが想像出來ます

よ。大河内以上ですね。

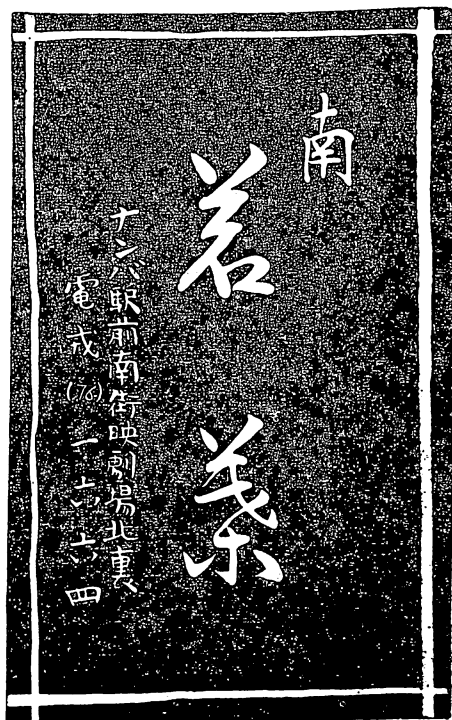
——猛優の猛優たる處を見せたのは、彼氏が後年盲腸の手術を受けるこゝになつた時の話で、これは猛優としての面目を示すと同時に、一面には俳優としての心懸けを忘れぬものなのです。

——何だか面白さうな話ですね。

——まあ、お茶を一つ頂いてからにませう。

——勿體をつけますかねハ、

（つづく）



# 書るゝ與に劇庭家竹松

福 六 田 額

これは、編輯子から與へられた題であるが、私には「與ふ可き何物も無い」に答へるより外ない。云ふ事は、家庭劇を全然認めない云ふ意味ではない。家庭劇は已に正しい目的を持ち、正しい道を拓き、確とした足ざりてそれを歩んでゆきつゝあるのだ。

今更、何も注文する事も、意見がましい事を云ふ事はないのである。強いて云ふならば、我々東京方の人間として、一度々來て貰ひたい云ふ位のものだが、それもさうやら實現されるらしい。で一切文句無しに云ふわけだ。今度の上京で、東京人は皆、十吾の「巧さ」を本當に認識したらしい。が、その巧さは「藝」の巧味より寧ろ「人間十吾」の巧味だと思ふ。彼の舞臺を見るに、何かしら眞實味に打たれる。しみ

く、こしたなつかしさが胸に迫るものがある。現はれて來る形は違ふが、死んだ澤田にはこれがあつた。今の菊五郎にもそれがある。ロッパにも

その兆が見える。この魅力こそ、俳優に取つて唯一の寶である。習んで至る境地ではない。生れながらにして持つてゐるものだ。この點、十吾は羨む可き存在である。尤も、たゞ漠然としてこの境地に到達したのではない。こゝまで來るまでの彼の苦勞たるや、蓋し筆紙に絶してゐるものがあると思ふ。私の家内は、二十幾年前、彼が廣島での文吾時代をよく知つてゐるさうである。その苦勞をよく克服して、自らの寶を持ちつゞけ、磨きつゞけて來た彼である。苦勞人の常として、内心は盤石の様に堅くしつかりしてゐるが、表面はこゝまでも謙讓

で、溫和で、そして思ひやりが深い。彼が他から愛敬される點は、こゝに源を發してゐる。

先日さる處で、さる人々こそ一所に彼に逢つた時の話題に「今少し老朽若朽を淘汰して、もつこしつかりした座組にはなるまいか」云つた様な注文があつた。實に親切なる注文であつた。けれど、あこで山上は「そない云ふたてなあ。氣の毒な人もありますのでなあ。」

こゝ、そつこ私に囁いた。この溫情は、こゝも直さず十吾の溫情であると思ふ。「多年苦樂を共にして來た人達だ。邪魔にさへならなければ……」云ふ心持だ。私はこれにも打たれた。

又、眞偽は知らぬが、こんな話をきいてゐる。彼がやうやく賣り出して物質的に恵ま

れる様になつた一ト頃「よく遊廓へ行つて、澤山の娼妓を一度に上げて楽しむだ」云ふ事。今云ふ通り眞偽は知らぬが、奇妙な遊び方である。藝者は何十人も呼ぶ様な事は、ごく普通のことであるが、一方の方は目的が局限されてゐる丈けに、いろ／＼な臆測が起る。それをもつて、彼の趣味が野卑であつた云ふ人もあるであらう。

更に脚本家茂林寺文福としても、彼は堂々たる存在である。勿論、興行政策上、全部が全部は云へないが、尠くも、今度持つて來た中でも「丘の一本杉」などは、立派な社會劇である。「人生双六」は見なかつたが、これも勝れた作だと思ひてゐる。尙、これを助くるに、館直志、澁谷天外のある事も記憶しておきたい。更に、舞臺監督として、山上貞一がある事も牢記されてよい。山上は我々綺堂門下の同人なので、私が彼の事を書くのは、善悪ともに遠慮すべき事であるが、十吾、山上のコンビは、いくつか他にもあるであらう中の一つに、名コンビであると思ふ。

十吾よ。まつすぐに歩め！  
私の言葉はそれだけである。

## 松竹家庭劇東上成功

中山楠雄

松竹家庭劇がこの前東京の舞臺を踏んだのは恰度三年前になる。この前の東上の時はいへきも、勿論今回同様面白い芝居であつた事に變りはない。

しかし乍ら今回の東上の如く、大成功はさうひるき目に見てもいへなかつたやうである。

しからば、何故この前は今回程の成功を見なかつたのか。そして今度の東上は、さうして成功したのであらうか。これを松竹家庭劇の新しい問題として取り上げねばなるまい。

この前松竹家庭劇が東上した時の小屋は、新宿の第一劇場である。由來新宿第一劇場は、松竹のいはゞ東京に於ける第二流の劇場である。松竹の意圖が最初の時はだいたい違つて來てゐる事は事實であ

る。

松竹家庭劇はこゝに東上したのである。狭いこいへば狭いやうなもの、矢張りなんこいつても廣い東京である。

自然松竹家庭劇は所謂中央の劇場から一寸遠い感じに、

人々の注目をひく迄には至らなかつたのである。今度は東上するこいふ事が決まるこ直ぐ宣傳がはじまつた。恐らくこれが最大の成功の因ではあるまいかと思はれる。そして東上した劇場が、中央の東京劇場である。全ては完備した陣立てこいはざるを得ない。

それで、では今度の松竹家庭劇東上の成功はそれだけかこいはれさうな氣がするので、一寸觸れておきたいが、松竹家庭劇の内容、松竹家庭劇の面白さこいふものは、前にも申した通り少しも三年前の時こ變つてはゐらないのである。

この前も立派に面白い松竹家庭劇であつた。そして今度も朗かな面白い、そしてなかなか示唆に富んだ楽しい家庭劇であつたのである。興行の成功不成功はかゝつてこの宣傳にある事こ地の利を占めなければならぬ事を、しみこ味はされたのである。

松竹家庭劇のよさは、あのさまぐな藝風、あのさまぐまな個性、あのさまぐな持ち味を持つた、いろくなまぐまぐな俳優を、渾然こ一つの松竹家庭劇に溶け込ました處にあるこ思ふ。

あれは全く日本中きこを探してもあれだけヴアラエテイに富んだ俳優の集團こいふものは無類である。なればこそこに脚本の選定、或は製作に、企劃部なり文藝部なりの異常な苦心も入らうこ思はれる。

筆者は「丘の一本杉」に於ける十吾の異常な藝質に心から感動した。あれは十吾こいふより、それ以上の父親になり切つてゐる十吾なのである。

あれだけの素質を持つてゐる喜劇人は現在一寸見當らぬ。曾我廼家五郎は別物である。彼は天才でもあるが、よ努力の人の感が深い。しかし十吾の、少くこあの役は、

全く藝術家として異常な素質を備へてゐる事を裏書きして餘りあつた。十吾はあの素質をさうか延ばして欲しい。そして松竹家庭劇は、なにより矢張り脚本の選擇が望ましい。

九月はまた今回の成功に乗つて、再度東上するこいふ松竹家庭劇に、乞はれるまぐほんの思ひついた注意迄を申し述べる。(澤東草庵にて)

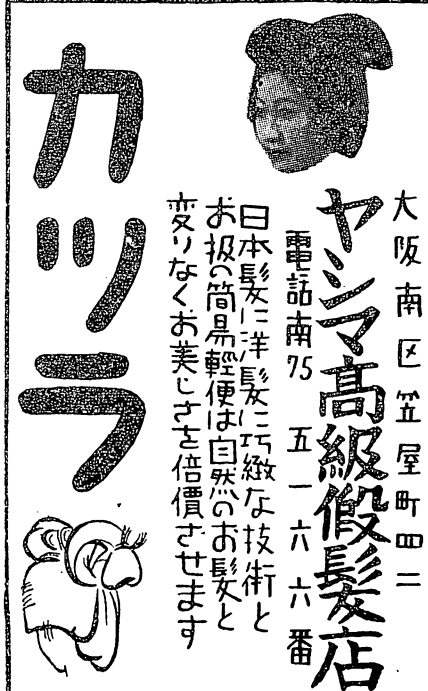
大阪南区五屋町四二

ヤシマ高級假髮店

電話南75 五一六六番

日本髪に洋髪に巧緻な技術とお扱の簡易輕便は自然のお髪と変りなくお美しさ倍價させます

カツラ



る 募 を 友 誌

● 規 内 ●

- ◇眞面目な研究を續けたく、誌友に御加入をお勧めします。
- ◇誌友は本誌半ヶ年分金壹圓四拾錢(送料共)或は一ヶ年分金貳圓八拾錢(送料共)を前納して頂きます。振替口座東京、四〇五七七番 天野米太郎宛に御拂込が御便利です。
- ◇誌友に限り脚本其他の批判、添削、推薦の希望に應じます。  
(原稿は二十字二十行二百字又は四百字の用紙を使用されたきこと。)
- ◇隨時誌友會を催し、其節は出席して頂く。
- ◇誌友名簿更新のこの際、改めて御申込を願ひます。



洋 酒 ・ 食 料 品 ・ 罐 詰 問 屋

株 式 會 社 横 山 商 店

創 業 明 治 五 年

大 阪 市 東 區 豐 後 町 三 番 地

電 話 東 94 代 表 三 八 六 五 番  
振 替 口 座 大 阪 二 八 四 七 番

# 五郎と十吾

雄正田菱



創立以來三十餘年、文字通り苦闘の跡をのこして來た會我廼家五郎劇が、その幾年來渝らぬ味で觀客を娯ませてくれてゐる懐しさも、喜劇四本三新派一本の五本立で觀客に永い親しみを持ち、完全に人氣劇團、弗箱劇團となつて家庭劇の二つの魅力は今更長々書きこきもないが、近頃の五郎と十吾について感じたことを書いて見やう。

× ×

五郎が最近非常に身體を大切にしてゐる、身體を粗末にする人間はないものだが、見るから精力家タイプの五郎がいつかの大患この方、ウンミ身體に注意して、新しい相棒の泉虎に時々主位を任せたかの如き感を抱かせるほどの役を振つて、自分は軽く逃げてる、もつこも生れてはじ

めての大患らひださうだからこれ位の要心は當然だが、會ふ人毎に「わたしもモウ歳でね、さうも今迄のやうに身體に自信が持てません」さういふやうになつた、まことにかなしむべき言葉を聞く、年齢からくる弱音を今日の五郎から聞こうとは思はなかつた自分は、「年齢や身體のこきをそれほぎ氣にかけてゐては毫碌するから、もつこハリキツてくれ」さ會ふ毎に進言してゐる、あの年までに多くの脚本を書き、自作、自演、自監督の數々の仕事をのこして來た五郎だけに、晩年にもう一努力を示してほしいと思ふ。

第二の會我廼家さいふこきは勿論考へねばならぬ重大問題だが、そんな悲觀説は秋の夜長の徒然の折にまかせて、五郎依然衰へずであつてほしい。

× ×

十吾は見るから頑健なタイプではない、これは五郎と比べて見て全然正反對である。然し弱さうな十吾が病氣休演するこきもなく、あれで千を教へる脚本を書き、自ら演じて十年一日の如くハリキツてゐる、しかもこんぎなき三年ぶりの帝都再公演に東京劇場を當てがはれて、二十幾日間滿員をつけて江戸ッ兒をアツソ魂消させたさいふ消息だが、實に相當なる働き手である、よきトリオの天外、淡海と共に關西の人氣男として喜劇界に君臨してゐる彼の得意



や思ふべしで、こんきの凱旋  
興行を七月の京都で開けるこ  
いふに至つては京都人の恐縮  
ぶりは並大抵でなからうと思  
ふ。

× ×

身體つきから見て全然正反  
對の五郎ミ十吾が、同じやう  
に脚本を書き、同じやうに舞  
臺に立ち、同じやうに人氣者  
である。〃いつまでも健在た  
れ〃ミ心から祈らずにはゐら  
れない。

「身體の調子はさうです？」  
ミ問へば「妙に近頃自信が持  
てない」ミつぶやく五郎ミ、  
「へーまあ……さうなり……」  
ミムツツリする十吾、ごちら  
もよき俳優であり、得難い存  
在である。  
働らく舞臺は異つても二人  
仲よく手をつないで互ひに輔  
け合ひつゝ頑張つてもらひた  
いものだ。

標商 錄登

物名花浪

鮎 倉 延

入北詰北橋門衛左太内ノ島區南市阪大

番一三八五⑦南 話電  
番二三九八四阪穴替振

堂 月 久 舖本鮎若延

酸 炭 然 天

TRADE MARK



NISHIO & CO.,

プッロシ・水ダーソ  
造製種各水料飲涼清

所 泉 鑛 尾 西

郎 二 銀 尾 西

五六一町阪南區速浪市阪大  
番七一九二⑦戎話電



# 澁團扇で足り候

曾我廼家 五郎

柴折戸の蔭に、ベコニアの花がしつこり朝露をやぎして、夏的情緒を漂はして居ります。夏の朝のすがくしさは、何も言へない、特別の魅力を持つてゐるやうです。だが、やがて、灼熱の太陽が地軸三十四五度の直線を引く頃にもなれば、じつと體中汗ばんで、これは堪らぬと冷蔵庫の中へでも頭をつゝ込みたい氣持、金ご暇のある方は、涼しい山や海岸へ避暑に洒落こまれるんでせうが、私ごもみたいに、仕事に追ひかけられてゐるものには、そんな餘裕ありません。

暑い〜と逃げ廻つて、自暴に扇風機をかけたたりするに、いくらでも暑く感ずるもので、きつちみち、暑いのを人間の力で急に涼しくする事は出来ないに、これだけはあつさり諦めて、悠々達觀しきつてしまへば、また其處に、夏でなくては味へない情緒も湧いてくると言ふものです。

青疊の上に、澁團扇片手に寝ころんで、すだれを通して吹いて来る微風に、汗ばんだ肌を撫でさせるのは堪らなくいゝもんです。殊に、日本特有の團扇は私は大好きで、昔の浮世繪を見ても、江戸末期

の文學物なきにも盛んに取入れられて、なか〜情緒のあるものです。私なき舞臺に働いてゐる者には、實のところ夏はあまり有難い存在ではありません。冷房完備の客席で、芝居を御覽になつてゐらつしやるお客さん方は、避暑に行くより安上りで非常に結構な御身分なんです。舞臺で動き廻つたり、時には冬でも着ないやうな厚い衣裳を着なくちやならないに、全く汗だくものです。ですから、夏には矢張り夏向きの狂言を列べるやうにしてはるますが、それで



ゝかなりこも御國の御役に立ちますれば、親としてこれ以上の本懐はございませぬ。舞臺は私一代の戰場、子供に負けないやうに、暑さを忘れて

一生懸命働きたいと思つてゐます。

舞臺を終つて、樂屋で遊園扇片手に涼を取る時の樂しさ、私には、夏ならではの味は

へない一情景です。

我が避暑はこれで足り候遊園扇

て下さるのにと思ふこ、氣が氣であります。

間もなく私も舞臺の人になりました。大向から十五ミ聲をかけて下さる方もありましたが、何んだか俳優ミ觀客の息がびつたり合つて來ないのです。中には關西の面白い洒落言葉が受されない方もあるやうです。それミ氣附いて私達は懸命に努力しました。

おかげで日が經つに従つて、私達の努力も認められ、文字通りの満員をつゞけさせて頂きました。併しこれは全く關西の皆様のお後援があつたればこそです。

これからは、ちよいと上京してくれミ東京のお客様方から、有難いお言葉を頂きましたし、文壇、新聞社の諸先生にも大變好意を持つて頂きました。私達も弛まず勉強して皆様の御期待に添ひたい。

## 東都公演を了へて

### 會我廻家 十 吾

家庭劇の東都出演は今回で三度目です。前二回は馴染薄

の我々としては、決して不成績ではなかつたのですが、關西公演に比べるこ、いさゝか淋しさを感じました。今回もあまり良いコンディションにはいへませんが、俗に三度目の正直、此度こそは東京の觀客を笑殺しようこ、先づ當り狂言を選定して、一致協力、戦闘準備おさくおこたりな

く、絶好の成績を擧げるこに盡力致しました。

初日當日、勇んで東京劇場へ樂屋入りしますこ、鏡臺前に積まれた電報二十五六通、いづれも京阪神のファン各位からの祝電ミ激勵の電文ばかり。思はず目頭が熱くなりました。ファンの皆様に對しても勝たずば生きて歸れませぬ。鏡臺に向つた私の泣いた顔、嬉し涙を溢した顔、我れ

乍ら面白い顔だと思ひました。折から開幕を知らせるベル。舞臺は戰場、一座のハリキリ方は相當なものでありました。

出を待つ舞臺裏で觀客の御様子如何にさうかゞへば、劇の進行するに従つて觀客の笑ひ聲が、いつも違ふ、必ず笑ひの來る所でも手應へがない。さあ大變だ！これでは切角關西の皆様が御後援して居



富おの子智美

# わたしの銷夏法

大江美智子

今年はこの八月を休んで海か山か、涼しい處で少し靜養したら——お父が心配してくれませんが、さてどこへ参りましても夏は暑いものご相場がきまつてをりますので……。

それに今年には軍部の方々が私達に代つて御國のため、東洋平和のために、炎熱烈しい大陸で御奉公遊ばされるその御心勞を想像いたします時、避暑したいなごいふ氣を起しますのさへ本當に勿體ないことでございます。その何萬分の一にしか當りませんでせうが、私達も分相應に、與へ

られた舞臺の上の仕事を生命として酷熱を必死に闘ひながらこの夏を過ごしたいご考へてをります。

〃心頭を滅却すれば火も亦涼し〃ごいふ言葉を、よく夏になりますご聞きますが、そんな修養の出來てゐない私などなか／＼さういふ三昧境には這入れません。

女のくせに男の方に負けないうやうな大立廻りの時など大の男を大勢相手に、有るだけの力を出して、夢中になつてやりませんが、そんな時暑いなごご思つて心に弛みが出まし

たら、途端に殺<sup>た</sup>手の手が狂つて、相手を怪我さすか、自分が傷くやうな事が起ります。それが、張り切つてやつてをりますご、體中汗びつしよりになつてまるで海から上つて來た時のやうな様子です。舞臺生活も他所目で御覽になるほご樂なものでもありません

けれご、私達のは仕事、お客様の方は入場料ご税金ごを拂つて、わざわざ見に來て下さるので、その上冷房装置も行き届かない劇場で、しかも大入の時などまるで蒸風呂中の暑さのやうに伺つてをります

ので……さうしてまで見て下さる御熱心に對しても、私達は暑さなごを蹴飛ばして「舞臺は戰場」の古い譬の通り、命がけて勤めなければなりません。併しあの強烈なライトを浴びて眞剣に頑張る時、全く暑さも何も忘れてしまひます。これが私達の天職なのでその爲には汗みぎろになつて働くのが一番愉快な事でもあり、知らず識らず何よりの銷夏法にもなつてゐるのでございます。誠に暑苦しいお話ばかりになりました申譯ございませご、さうぞ涼しい方は舞臺の上からお酌みごりを願ひ上げます。

川芝  
柳居

花<sup>はな</sup>

四<sup>よ</sup>

天<sup>てん</sup>

森

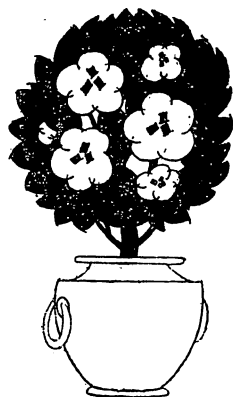
東

魚

敬禮をするに四天はぶツかへり  
花四天見事に尻を見せて幕  
七三は兎角に蹴つまづくころ  
おかアんもかわても泣いた幕が下り  
この幕で彼の女も泣いたコムバクト  
大通の素劇端役を買はれたり  
素劇いや恐れる樂屋布團なり  
大層な心臓に云ふ素人劇  
耳に鼻描いて漫畫の羽左衛門  
弓道大家吉右衛門丈

弓勢に舞臺に別なジワが来る

註。ジワは芝居道の専門語にて低けれど心から出た感嘆の聲を云ふ也。



## 憧憬の道頓堀

永田靖

私が中学生の頃、加藤まさをの綺麗な挿絵が入つてそれに歌詞を添へた繪葉書がよく流行した。四五枚續きで一袋二十銭位？だったか。少年の感傷癖で私はまさを畫伯描くところの少女の眼に非常な憧れを抱いてゐた。幾つか買ひ集めたその中に道頓堀の夜を歌つたものがあつた。今でもその文句の數行を忘れない。誰れの作詞で作曲は誰れか記憶にないが、ひどくセンチなものだつた。私は集會の度毎に餘興になると壇上に登つて、眼を細くし口をすぼめてその唄を歌つた。仲間内では割合に歌ふことが下手ではなかつたので皆相當の敬意を拂つてくれたらしい。ク道頓堀の夜の川、河岸の酒

場の灯は燃えて、水に寫つて泣いてゐるク云々。九州の田舎中學に生ひ立つた私は、その頃から夢に描く道頓堀に異常なロマンチツクな熱情を寄せてゐた。

それから數年經過、私は俳優の卵として劇團の旅公演に参加して大阪の地を訪れた。憧憬の的ク道頓堀クの河岸に宿をして、朝日會館に通つた。實際のところ舞臺に出ることよりもその往復の道頓堀通過の方に餘計に興味を煮かれてゐたかもしれない。芝居のハネたある晩、仲間二三人と後援會の人たちを混へた五六名ばかりで道頓堀のとあるカフェーに入つた。初めのうちはズボンの折目を気にしながら、ソファに斜にかまへて氣取つてゐた。河の面に映るネオンサインを眺め乍ら、そとろセンチ

な氣分を満喫した。ク岸の柳に身をもたせエ：可愛い瞳をした女の子オ：エブロン噛んではあ泣いてゐるウ。クいと感傷的にいゝとも咏嘆的に私はしんみりとして、例の唄を思ひ出しそしてまはりの女給達にこれ聴けといはぬばかりに誦んだ。今にして思へば私がいくら氣分を出して唄つても、彼女等には何の變哲もなかつたらしい。そんな唄よりもうんとこさ、ビールを飲ませて店の成績を擧げる方が大事だつたに違ひない。道頓堀で飲んでゐる——考へただけで私の魂は中天に飛んだ。飲むほどに酔ふほどに私は段々と學生時代の亂暴な飲み方に變つて來た。道頓堀のロマンチズムは影を潜めて、デカンショになり三島女郎來にな

つてしまつた。その場角が隣りのテーブルにゐた組と歌合戦になつて、場面は愈々エキサイトしてきつた。持前の大きな地聲が役立つて私たちが完全に相手を沈黙させた。その相手組が歸りがけにこちらを向いて二言三言罵りたてた。私は勝利の優越感に浸り乍らビールを乾杯した。その時に江戸ツ子のUが席を立つた。便所に行つたんだらうと思つてゐたら、なかなか歸つて來ない。表が騒しくなつたので覗いてみるとUとさつき

の組の一人とが相對峙してゐる。Uは片方の眼を押へてゐる。引き分けようとして私が仲へ入つた途端、傍にゐた一人の奴が兩手を減茶苦茶に振り廻はした。その拳闘が私の鼻をいやといふ程擡りつけ

た。私は不覺にも顔中鼻血だらけになつた。敵の一團は素早く流しを掴まへて遁走してしまつた。

翌日の舞臺では二枚目をやるUが惨めな眼帯をして芝居をした。

片目の二枚目なんてあんまり聞いたことがない。劇團では相當に腕力家だと云はれてゐた私はすつかり而目玉を潰してしまつた。女優連までがその晩のことを聞き知つて異口同音にクまあ永田さんがついでゐてねエ。おまけに永田さん鼻血を出したんだつてさく片目をやられた二枚目はすつかり同情を買つたのに、私は鼻血を出したドン、キホーテになり了つた。

それから私はすつかり道頓堀が嫌ひになつた。道頓堀の劇場へ出ても決して道頓堀のカフェーには足を向けまいと誓ひを立てた。

ビールを飲まないで、サイダーかラムネを樂屋で飲み乍ら、夏七月、道頓堀で芝居をする。これも立派な一つの修業であらう。

一九三八・六・二三



## 中座進出

本庄克二

どうとんぼり—といふと、大阪

の娯樂街といふ觀念を關東人に印象づけてゐる。實際この界限に呼吸してゐる人達は、本當の演劇通ばかりで、良い芝居は良い、悪い芝居は悪いと、相當穿つた批評がなされるのではないだらうか—そんな風に思はれる。

私達が今度始めて道頓堀の中座へ出演するに當つて、今いつたやうな氣構へは當然なくてはならぬ。今日まで新劇といふものが何か難しい、一般大衆からは親しみ難いものとして考へられ、智識階級だけに理解され、さうした階級だけを眼目とする芝居をやる團體として考へられてゐた。今日までの新劇が多少とも斯うした偏向を

持つてゐたことは否めない。

然し、良い演劇は誰が見ても面白く、必ず何物かを寄與せずには措かない筈である。良き演劇こそ大衆性を獲得することが出来るのは今日までの經驗で識つてゐる。

私達の永年の願望の一つであつた道頓堀出演は、何より嬉しく思つてゐる次第で、上演の成果に就いて、忌憚のない御意見が伺ひたいものである。

私の今度の持役は「女人哀劇」で幕臣齋藤源之丞、「綴方教室」で正子の父親に扮しますが、この父親の本名は豊田由五郎さんと云つて、戯曲に仕組まれてゐる時代はブリキ屋をしてゐたのです。現在は毎朝汚い工場帽を冠つて軍需

工場に通勤してられます。

一つの役に扮する場合、モデルを求めて、そつくり其モデルを真似ることは、俳優にとつて禁物だと考へるけれども、こゝから一つのヒントを掴むことはあり得るしそれが様々な色合ひや、潤ひを役の上に生かす場合は尠くない。

私は或晩、或事情で正子さんの實父由五郎さんと晩餐を共にすることが出来た。そして色々と役の上で學ぶものが多かつた。扮裝中の工場帽、鬘の形などは出来るだけ實在に近くやつてみたのですが、幸にして皆様の御期待に添へれば何よりと思つてゐる。

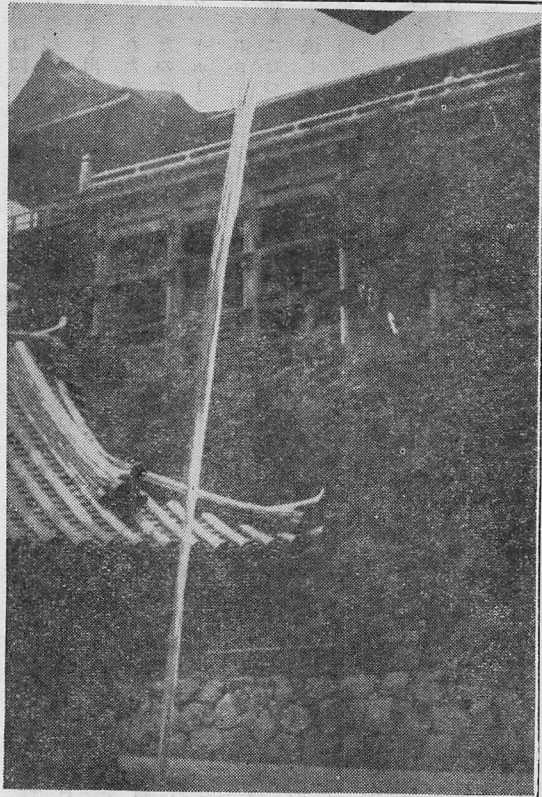
(中座樂屋にて)

# 涼風を

## 清水寺と

京といへば清水を聯想するくらゐ清水さんは京名所の中での随一だ。そして清水といへば俗に譬にも「清水の舞臺から飛んだ氣で……」といふあの奇抜なブラ

ンの舞臺を聯想せずにはゐまい。それから奥の院の方の舞臺の下にある音羽の瀧も昔からク見るまゝに清水山の瀧津瀬は心澄みますものぞありけるクなどと詠まれてる。名所案内のバスガールは「日本中で一番小さいさいので名高い瀧であります」とお上りさんを笑はせる——。石の樋から落下する三筋の細い瀧は、眺める瀧ではなくて水垢離する信者の爲



清水舞臺と音羽の瀧

(撮影—ジフタジ)

のものである。芝居では「新薄雪」の來國行が此處で水垢離を取る件がある。「忠臣蔵」八段目の道行の中の二上り歌にはク縁を結ばゞ清水寺へ參らんせ音羽の瀧にざんぶりぎ、毎日さういうて拜まんせ、さうぢやいなク云々の面白い文句がある。

記述が前後するが、清水と芝居との關係は甚だ淺くない。假名草紙の薄雪物語から出た「新薄雪物語」では、關部ノ左衛門が清水へ參詣に來て薄雪姫を見初める、奴の妻平が二人の戀の取持ちをやる、まことに華やかな面白い場面がある。それから清水の僧清玄が櫻姫に戀情を覺えて遂に身を亡ぼすといふやうな淨瑠璃もこの後に現はれて來る。

少々演劇史的な穿鑿になるが、「薄雪」の源を探ねると、遠く説教から發してゐて、それが淨瑠璃へ移入された譯で、「あゝごのわか」の愛護の若と鳩照姫とは清水へ參詣したのが縁で情を契ることになる。古淨瑠璃の清玄と櫻姫は土佐の「一心二河白道」となり、半二の岩倉宗玄・折琴姫となり、歌舞伎へ流れ込

# おとる

## 五條橋

んでは大南北、黙  
彌阿の諸作を生ん  
でゐる。

昔の芝居に、傘  
をバラニュート代

りにさして清水の

舞臺から新高雄の

谷間へ飛ぶのがあ

るが、誰の作であ

つたか今思ひ出せない。傘をさして飛ぶのは

立廻り宜しくあつてだつたと思ふが。

×

五條橋に關係した芝居といへば、「扇屋熊

谷」と所作事の「五條橋」ぐらゐのもののだら

う。扇屋の淨瑠璃の文句にはク軒に暖簾の風

そよぐとあつて、價千金の涼風は賣り物の

扇の外にもある。橋の西にある御影堂は敦盛

卿の内室が夫亡き後、尼同様の身となつて、

たつきの爲に扇を作つて賣り出した。これが

御影堂の扇の始まりで、芝居の扇屋はそれを

ネタにしてゐる。御馴染の武藏

坊辨慶は五條の天神に願掛けし

たとも言ひ、橋東の十禪寺に日

參したともいふ。あの有名な擬

寶珠の柱のある橋も、この寫眞

にはまるでそんな面影が無い。

寧ろその昔、清水の僧の勸進で

出来たため勸進橋と呼んだとい

ふその當時の傍の方に近から

う。尤も昔の五條橋はもう一つ

上流の松原橋(六條坊門通)で、

清水の觀音へは眞直ぐの通に當

る。それ故、昔は清水橋とも呼

んだ。

×

謠曲の方で清水に關係のある

のは熊野、花月、田村があり、

五條橋の方では例の橋辨慶くら

ゐのものだらうか。

(ほのほ生)



橋 條 五 の 中 理 修



## 六代目来る――

(ある通信の一部分)

九月の關西劇壇は南座が六代目、中座が東西青年歌舞伎ださうで、久々で見ごたへのある芝居が見られますね。そして、歌舞伎滅亡なき言はれてゐる昨今ですから、兩方ともタネのいゝ狂言でミツシリ熱演して、歌舞伎の爲に大いに氣を吐いてもらひたいと思ひます。

非常に評判が好かつたのですよ。併し私なきに云はせるミ作よりは六代目の演出の方が更に冴えてゐます。その演出には六代目らしい、善い意味のズルサ、頭のよさがハツキリ出てゐます。

六代目は自分の演技はすべて「をぎり」から出發してゐるのだと言つてゐるさうですが、成程この芝居を見てゐても、さういふ處は感じられません。全く演出だけでも第一人者です。名人です。

五代目は團十郎と並び立つた名優でしたが、私の母なきに云はせるミ、今の六代目の方が役者が一枚上ださうで、踊りだけから言つても、六代目の方がズツミ上だし、五代目は姿は意氣でも、品が無かつた人のやうです。

併し五代目自身もセリフの中に度々いつてゐたやうに新しもの好きで、その時代の尖端を行つてゐた人だけに、眞ッ暗い中に幕を明け、明くも舞臺は焚火の明かりだけで、その火を圍んで二人の人物が話をしてゐる。シバキが進んでトド焚火が消える、さうして暗い中に幕が閉ぢる、そんな事を考へてゐたミするミ此人も相當な演出家ですね。

# 南地ホニヤル

◆ ダン階上浴室新設 ◆  
繁華街に近く、交通至便  
閑雅な和洋室!

宿 二圓  
三圓  
一圓半  
額半憩  
南地戎橋電停前  
電話南四一四・四四一



ア 其 乳 コ 果 リ サ ラ  
 イ 他 洋 酸 ヒ シ 實 | イ ム  
 ス 酒 シ シ ロ ロ タ タ  
 ク リ 食 飲 ツ ツ  
 リ 食 料  
 ム 品 料 プ プ 水 | ネ

製 造 販 賣

松竹各劇場御用達

吉 村 商 會

大 阪 市 浪 速 區

新 川 二 丁 目 六 七 六

電 報 (76) 七 二 六 番

宮 本 武 藏

の

大 立 廻 立 大  
 刀 涯 中 僅 三 度  
 二 生

梅 徑 莊 主

酒もいける、甘い物もつまむこ  
 れを二刀流などといひますがこの  
 二刀流の開山は宮本武藏といふこ  
 とに世間は極めてしまつてをりま  
 す。芝居にも塚原卜傳から二刀の  
 奥義を授かる處があります。鍋蓋  
 試合と呼ぶのがこれで、柳生の二  
 蓋笠と兄弟分のやうな物ですが、  
 鍋蓋と二刀のタテが面白く、昔は  
 小芝居などでよく出し物にしまし  
 た。然し武藏は一生涯中、六十幾  
 度の大勝負に、一度も負けたこと

が無く、一度も二刀で立合つたこ  
 とは無いといひます。  
 たゞ吉岡拳法の一門と二度目の  
 試合に、一門の者どもが清十郎の  
 一子又七郎を助けて武藏に向つた  
 ので、武藏は仕方なく、始めて二  
 刀を振廻しました。

もう一度は伊賀で宍戸某といふ  
 鎖鎌の達人に出會つた時で、鎖の  
 分銅がうなりを立てて武藏の鼻先  
 を掠めて飛んで来る。刀へ巻きつ  
 かれたら大變で、荒木又右衛門も  
 これには苦しめられた話がある。  
 武藏は素早く左で抜いた小刀を胸  
 元へ投げつけ、ひるむ隙に大刀で  
 眞ッ二つに斬倒してしまつたので  
 ありました。

◎



## 新興キネマに捧ぐ

南 町 淑

「新興は看板を忘れて居る」——或る映畫雜誌でこんな言葉を見た事があつた。これは數年前の新興キネマを巧みに語りつくした一句である。

「當時我映畫界は入亂れて、種々の正視出来ない様な争動をおこし、新興キネマもその渦の中へ巻き込まれはしたが、しかし幸か不幸か他社の大なる被害に比べて、新興のそれは殆んど受けてゐない、と云つても良い程だつた。が、しかしそれが後に非常に悪い結果をもたらす事になつてしまつた。

他の各社はやつきになつてその復舊に努力し、日活は日活で、松竹は松竹で、東寶は東寶で、以後進むべきポジションを發見し、それが如何なるものであつたにしろ、それを看板として徐々に進むべき道を歩み始めた。

その新興は何をしてゐたか？唯茫然としてそれを見送るだけで自分の姿を顧る事すら知らなかつた。その原因の大きいなるものを舉げ

るならば、例へば「無聲映畫論」である。これは誰が論じたか？知るよしも無いが、新興は他社が發聲映畫を製作し始めても、自分の社は無聲映畫で押し通して行けば負けないだけの自信を持つてゐたのだらう。たしかに我國トーキー初期に於ては、滅び行く辯士道にも人々は同情もしたが、だん／＼トーキーの發達につれて大衆の同情は薄らぎ、反つてあざ笑ふ者さへ出來てきたのを如何ともする事が出來なかつた。

それに加へて役者の質の非常に悪かつた事。その當時新興には新人なるものを見たくても見られず。唯有名無實のプロダクション等と提携し、無味乾燥な何の進歩もない作品を製つて事足れりとしてゐた。

こんな状態を續けた新興も、やはり時の波に乗りなくてはどうしても駄目になり、トーキー作品とサイレント作品とを半分づつ作り、これを補はうとしたが、その時は既に遅

く、所謂インテリ階級からは二流三流映畫として見放され、ミーちゃん、ハーちゃんの胸をときめかきす映畫會社として、その存在を認められてゐるにすぎない有様になつてしまつてゐた。私等も新興映畫を見に行く者は、映畫が分らない者——と定めてゐたし、自分自身も時々は見に行つたが、それは辯士を聞きに行くこと云ふ好奇心の外には何物もなかつたのである。

この中に他社は文藝映畫や娛樂映畫を看板にどし／＼そのレベルを高めて行つた。

以上に書いたごときものが數年前までの新興キネマの現情であつた。

それが最近驚くべき一大轉回を來たした。それは何日頃から始まつたか？誰が始めたのか？、私としては知る事は出來ないが、それほどこの變化が如何に急速に敏腕家の頭腦をもつて行はれたかは容易に想像出來る事である。

ではこの新興キネマを左右する程の大スランプをどうして脱したか？先づ最初に言ひたいのは、今まで持ち腐らしてゐた新進スター（主に女優陣）を第一線に冒險的に大部分座らせ、古いスターを第二線に退かした事である。この日本映畫始まつて以來の大計劃をかくも急速に遂行し得たのはよほどの大膽な人

間でなくては出来ない事である。これにより若々しい元氣に満ちた第一線が築き上げられた。

第二にプロジュウサー、脚色家、監督が純大衆向と云ふポジションをしつかりつかんだ事だ。ある物はインテリに、あるものは學生に、ある物はミーちゃん連にと、苟も大衆と名が附く總ての人々に好感のもてる作品を製作し供給し始めた。これにはある階級には見る事が出来ない様な子供だましも現はれたる事になつたが、彼等はこれ待つてゐる大衆のある事を忘れなかつた。

第三は録音機の整備である。或る人が云ふ——「ウエンスタンより茂原式の方が良く聞えるぜ」と。新興録音係諸氏よ。氣をよくして可なりである。事實日本で今使用してゐるウエンスタンが外國のそれに比べていかに劣つてゐる事か。いろ／＼な事情もあらうが、それなら何故それ相當の手段を講じないのか？品名でだまされた時代は既に一と昔前に過ぎ去つてしまつてゐる。

かくの如く新興は生れ變り、眞實の新興の二字を振擧して第一線へ眞一文字に進出した。しかしかく言つてゐる間に時はどん／＼過ぎて行く。青年に變つたこの映畫社も未だやらなくてはならぬ仕事は多く残つてゐる。

そして次々に殖えて行く事だらう。しかしそれをしつかり見つめなくてはいけないが恐がる事はない。又自分自身をさげすむにも當らないだらう。今新興は第一線に立つてゐる事を強く自覺し、この若々しい元氣を永久に忘れない様に——。

★★

### □ 暑さ賣りの歌

暑さはいりませぬか

御新造さん

早い暑さ、遅い暑さ

君とあふ夜の暑さなど

お望みならば上げませう

いりませぬか、御新造さん

もし、もし、あきんど

お前の持つてゐるその暑さ

是非とも私に買はせておくれ

よその人には賣らないで

— 朝鮮古謡 (抄評) —

御見物の  
御帰りに

御艾居

天津號

道頓堀弁天座西筋向

銀座  
御見物の  
御帰りに

御艾居



# 道頓堀展望

## ◆中座の新築地劇團と

### 下加茂演劇團

七月の道頓堀劇場街に颯爽とS・T・Gの小旗の波が躍り、中座の表には傳統を破つた嶄新な繪看板が掲げられ、行く人は立止つて少時それを見上げる——そんな風景が出現した。これは藝術劇團新築地が商業演劇の大舞臺へ進出するといふ劃期的な第一回公演の景況である。

第一回公演として一日より六日まで高倉テル作「子もり良寛」山本有三作「女人哀詞」第二回公演は七日から十日まで、眞船豊作「敵」、豊田正子原作、古川良範脚色「綴方教室」各々名作二本立ての短期興行陣を布いたが、無慙にも成績芳しからず、新劇の道頓堀進出の前途に暗影を投げるもので

あつた。新劇ファンが動員された朝日會館公演後、半月も経たぬ中に同じ演し物を選んだのは企劃として拙く、今度の失敗の源は爰にある。尤も公演中の十日間には連日の雨、雨と阪神地方の大水害突發などあつて、條件的に不幸であつたにしても、内容的にもつと高い物を選むか、今度のやうにポピュラー化したものより關西初演ものを取り上げるか、いづれにしても明るい健康な脚本を選ぶべきだつたのだ。

この現代演劇の極點に立つ新築地と對蹠的位置に立つ映畫スター坂東好太郎主宰の下加茂演劇團が十四日から十八日まで五日間、その旗擧げ興行を同じ舞臺に催したがこれは連日大入の好成績を示し、その皮肉な現象に當事者を面喰はせたことであつたが、これは演劇が脚本内容以外、演技者の

## ◆歌舞伎座の

### 五郎劇

五郎一座が歌舞伎座にオール新作の五本立ての替りまで出したが、彼等が今日の問題から續々と素材を取り、直に舞臺に移して行くそのルポルタージュ性、ニュース性、レヴェウ性は賞讃に値するものがあり、これを五郎劇独自の作劇術に依つて舞臺に上せるのであるが、この場合、嘘と眞實と云ふことが問題になるらしいが、舞臺上に眞實を追求表現する際、事實でないから嘘だとは云ひ切れない。この場合、眞實の爲の

天婦羅と佛蘭西料理

# 喜久屋食堂

道頓堀式橋北詰(75)番

一七四八番

事實の歪曲乃至誇張と云ふ位置から見るべきで、事實、現實、眞實眞理の概念を混同しないやうにしたい。

新劇が主として寫實面から眞實を求め、所謂喜劇が誇張乃至嘘の面から眞實を追ふのだと解したい。而も五郎劇が今日もなほ名聲を得てゐるのは、矢張り別にあの容貌肉體的條件が大きな素因ともなつてゐる筈である。五郎が登場して何か仕事し、臺詞を云ふともう観客は笑ひ、涙しまた笑ふ。こゝにもその取材とは別に五郎劇の生命がある。

### ◆角座の

#### 大江美智子一座

麗貌大江美智子角座に來演二の替りまで出して而も相當な成績を上げた様である。聞けば美智子は平常舞臺修業の二法として、劍道は北辰一刀流初段の免狀を取り、別に柔道も勉強してゐるさうである。これは強ち宣傳だけではない

やうだ。今も全國に女劍劇は五十種から存在してゐるとの事、大江と不二洋子が互に猛烈な人氣競争中らしい。蓋し女劍劇など一と頃のレヴュウ流行と同様、一時の變態現象であらうが一般大衆は寫實的に進む新劇よりは、この美女があられもなく股を開いて跳ね廻る女劍劇に餘計魅力を感じるのだから。現代のやうな時勢には何といつても手ツ取り早い、簡単な刺戟が大衆には好ましいのだ。

大衆を置去りにしては演劇は成立たぬとしても、また大衆に接る演劇も歎かほしい。大江劇に見られるやうな台詞に分別臭い、融けきらぬ生なモラルをぢかに押付けるのも鼻持ちならない。

併し大江が颯爽と本水使用の大衆の中で、多勢の男を相手にバツサバツサと斬り捨て、行く大殺陣は、矢張りある種の刺戟と快感を與へ、ある満足も感じるのだ。大江劇の魅力は矢張り美智子の顔に身體に——肉體にある。

### ◆浪花座の

#### キノドラマ

キノドラマは昨夏、新宿第一劇場で衣笠貞之助氏により新築地劇團が「嗤ふ手紙」を發表したのが最初だったが、この演劇形式を關西へ、大衆のものとして持つて來たのは確に松竹の功績である。企劃としても、當世流行の女劍劇にこの目新しい演劇形式をプラスしたのは頭の良いことであつたが、さて第一回作「仇討叢雲峠」より

第三回作「渦まく水門」までの足跡を考へてみて、これこそ！と快哉を叫ばしめるものがあつたか？松園桃子以下の三姉妹を一躍スターに育て上げたのは成功だつたが、映畫と舞臺との轉換、接續、融合はどうか？、更に映畫の持つ超時間、空間性の追求獲得が望ましいが……未だ試作習作の域を出ないやうだ。而も桃子の魅力は未だしの感が深い。

(T.N.S)

御用命の履物  
御用命は

道頓堀

支店  
天王寺大道南門電停東辻角

百田履物店

日本橋南詰東二軒目  
電南(75)二〇六一番

# 懸賞課題

川柳課題

## ◇怪談

森 東魚氏選

芝居と關係あるものに限る。

十句以内

隨筆課題

## ◇芝居印象記

森 ほのほ選

寫生、感想、劇評、見物記等いづれも可なり。

枚數制限無きも、簡潔を尊ぶ。

●締切 毎月七日。

應募原稿は添附の用紙を用ふるか、或は右用紙を原稿へ綴付けて送付のこころ。

送付先は道頓堀編輯部宛。(應募原稿を失書するこころ。)

入選の上掲載の秀逸作(或は佳作)には、何等かの方法にて感謝の意を表す。

# 投稿課題

はがきにてても  
封書にてても  
開き封にてても

## ◇この優にこの

役を

演劇、映畫、レヴユウにわたり、この優にこの役を演らせてみたいと思ひなされるこころはありませんか？

## ◇この脚本を

この芝居を

新舊を論ぜず、主題、思想、様式、演出、演技等の上からは是非とも舞臺に上演してみたいと思ひになるものはありますか？

## ◇幕間

本誌始め劇團、劇場、出演者等への注意、注文、批判、希望等を遠慮無く述べて頂きたい！幕間の廊下で氣樂にお話し下さるつもりで……。掲載の分に對し、或時に、或機会に、何等かの方法で感謝の意を表したいと思ひます。

# 次號九月號豫告

## ◇問題の歌舞伎

劇檢討

歌舞伎は滅亡するか？ 能樂の如く保存すべきか？ 改訂？ 整理？

## ◇小山内薫は語る

る

小山内先生は死んだ！ でも生きてゐる！ 演劇の新しき蓄きを問はず、先生はそも何を語らんとする！！

## ◇新讀物櫛

夜そば賣の男が大家の小町娘を殺した！ 戀か？ 金？

## ◇近來の傑作！

わたしの失敗

志賀廼家淡海の新赤毛布式失敗談！ 淡海自身の告白！

## ◇新案懸賞募集

編輯部は何を讀者に課せんとするか？ 税金でないこころだけは確だ！

# 應募原稿用紙

(七・八月合併號添付)

住所氏名



(此用紙使用は一枚一人に限る)

# 編輯後記

×

▽聖戰一周年の記念さるべき日も既に過ぎた。戰勝に次ぐ戰勝、武運は愈々赫々たるものがある。而して武運と併び立つ文運やいかに？特に演劇文學はいかに？舞臺美術はいかに？文運も亦煌々たる光明を示すべき秋に會してゐる。既に十餘年の歲月を關西劇壇と共に生長し、漸進して來た本誌は更に一層の前進、一層の飛躍を敢行せんとする。希はくは倍舊の御聲援を賜はらんことを。

×

▽前の編輯主任源多徳三郎君が事務多端の爲、編輯係と印刷所を變更、七、八の兩號を合併し、茲に盛夏號として諸彦にまみえる。勝手ながら御諒承を願つておく。

×

▽本號(扉)の餘白を以て披露中上げた通り、爾後森ほのほ編輯を鑑

修し、號を追うて紙上の面目を一新する。本號既にその片鱗を示してゐると自讃するを恕されたい。

×

▽年來の寄稿家としてお馴染深き吸江、高安六郎博士を始めとして「歌舞伎劇の看方」「六代目菊五郎傳」の著者、濱村米藏氏から猛暑且つ御多忙中、玉稿を惠まれたのは、寔に本誌の光榮とするところである。

×

▽京都日出の演藝部長菱田正男氏、「オール演藝」の中山楠雄氏、「舞臺」の額田六福氏、川柳の作家研究家として知名の森東魚氏、某大學々生で、熱心なるキネマの研究者南町淑氏等は、今後も愈々本誌の爲に盡して下さると。

×

▽俳優側からは當代の花形、花柳丈を始めとして、五郎、十吾の兩巨頭、永田、本庄の新進、美形美智子の語丈の助力を得た。

シリウタオネバニ核結

…科病柳花…

**院医原藤**

★ 番 六六 三六 二六 戎話電 ★ 入西側ノ溝筋橋戎 ★

シリウタオネバニ核結

|                      |                              |                        |  |  |                              |                              |                             |                              |                 |              |
|----------------------|------------------------------|------------------------|--|--|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------|--------------|
| 發行所<br><b>道頓堀編輯部</b> | 大阪市南區久左衛門町八番地<br>松竹株式會社大阪支店內 | 定價 一部 金貳拾五錢<br>(送料 壹錢) | 半年 六冊 金壹圓四拾錢<br>一年十二冊 金貳圓八拾錢<br>(送料 共) | ▼振替を御利用の場合は<br>東京 四〇五七七番<br>天野米太郎(御拂込の事) | ▼廣告取扱<br>大阪電報通信社<br>北區中之島二丁目 | ▼廣告の御用は「電通」又は<br>當編輯部(御申込の事) | 昭和十三年八月十日印刷<br>昭和十三年八月十五日發行 | 大阪市南區久左衛門町八番地<br>松竹株式會社大阪支店內 | 發行<br>編輯人 鳥江 鏡也 | 印刷所 土山文隆堂印刷部 |
|----------------------|------------------------------|------------------------|--|--|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------------|--------------|



時局下經濟の自肅統制

高級 キヤバレーの標準切下

限 制 上 賣  
下 値 一 均

御 飲 食 代 一 卓

五 圓

以 内 に 制 限

五圓以上は御断りする

安心なストツブシステム

戎 橋 銀 座 會 館

白告の女游るあ  
**河氷る花**

吉研原 × 督監 雄隆井柳 × 色脚 夫桓澤藤 × 作原

上原謙  
 三宅邦子

坂本武・飯田蝶子  
 近衛敏明・齋藤達雄  
 森川まさみ・東山光子  
 横美佐子・三浦光子  
 忍節子・平野鮎子



封 | 近  
 切 | 日

畫映作特船大竹松



昭和十三年十月廿五日第三種郵便物認可  
 昭和十三年八月八日印刷(毎月一回)  
 昭和十三年八月十五日發行(十五日發行)  
 「運轉編」第百四十三號 第十三年

142